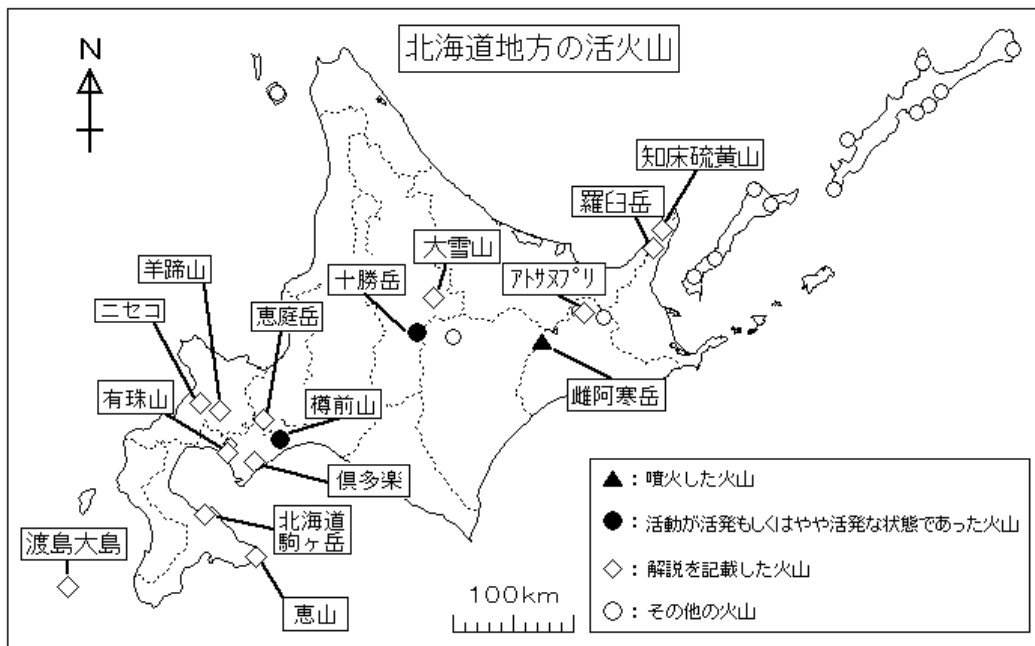


# 北海道地方の火山活動解説資料（年報：平成 18 年）

札幌管区気象台 火山監視・情報センター

火山活動解説資料（年報）は、北海道地方の活火山について札幌管区気象台が年間の活動状況を取りまとめたもので、毎年 1 月に公表しています。



平成 18 年の月別火山活動状況

火山名	平成18年(2006年)											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
知床硫黄山										◇		
羅臼岳										◇		
アトサヌプリ							◇			◇		
雌阿寒岳	◇	●	▲	●	●	●	●	●	◇	◇	◇	◇
大雪山										◇		
十勝岳	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
樽前山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
恵庭岳						◇	◇					
倶多楽	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
有珠山	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
羊蹄山							◇					
二セコ							◇					
北海道駒ヶ岳	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
恵山	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
渡島大島					◇					◇	◇	

この資料はホームページでも閲覧することができます（札幌管区気象台 <http://www.sapporo-jma.go.jp> 気象庁 <http://www.jma.go.jp>）。

資料は気象庁の他、北海道、北海道立地質研究所、北海道開発局、第一管区海上保安本部、独立行政法人産業総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも使用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

資料中の地図については、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』、『数値地図 50000（地図画像）』を複製しています。（承認番号 平 17 総復、第 650 号）

## 平成 18 年の概況

【雌阿寒岳では 3 月 21 日に小規模な噴火が発生し火山活動は活発となりましたが、その後徐々に活動は低下し、8 月以降は静穏な状態で経過しました。十勝岳、樽前山の火山活動はやや活発な状態で経過しました。】

## ◇知床硫黄山〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇恵庭岳〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇羅臼岳〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇倶多楽〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇アトサヌプリ〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇有珠山〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ▲雌阿寒岳〔静穏な状況→やや活発な状況→活発な状況→やや活発な状況→静穏な状況〕

3 月 21 日、雌阿寒岳の赤沼火口と山頂北西側斜面で小規模な噴火が発生し、雌阿寒岳南東側で微量の降灰が観測されたほか、山頂の北西側斜面ではごく小規模な泥流が発生しました。

3 月 21 日の噴火以降、ポンマチネシリ山頂の赤沼火口や北西側斜面では活発な噴煙活動がみられ、火山活動は活発な状況でしたが、その後は噴煙活動に低下傾向が認められるなど火山活動は次第に低下し、8 月以降は静穏な状況で経過しました。

## ◇羊蹄山〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇ニセコ〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇北海道駒ヶ岳〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。わずかな山体膨張や、2003 年 9 月以降見られている昭和 4 年火口からの弱い噴気は引き続き観測されました。

## ◇恵山〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇大雪山〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ◇渡島大島〔静穏な状況〕

火山活動は静穏に経過しました。

## ●十勝岳〔やや活発な状況〕

62-2 火口では 2006 年 1 月以降、噴煙活動及び火口温度に低下傾向がみられているものの、熱活動は依然としてやや活発な状況で経過しました。

2 月 3 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測されたほか、2 月 14 日にも振幅の小さな火山性微動が観測されました。

## ●樽前山〔やや活発な状況〕

A 火口や B 噴気孔群は高温の状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

上記以外の火山は静穏に経過しました。

## 火山情報発表状況

平成 18 年は雌阿寒岳で臨時火山情報を 1 回、その前後に火山観測情報を 34 回発表しました。詳細は雌阿寒岳の解説資料（年報）を参照してください。その他の火山では火山情報の発表はありませんでした。